

Y12b 国立科学博物館所蔵太陽黒点スケッチのデジタル化と公開

洞口俊博, 中島隆 (国立科学博物館)

国立科学博物館には当館の職員であった小山ヒサ子氏 (1916-1997) が残した膨大な数の太陽黒点スケッチが保管されている。1947年に上野の国立科学博物館屋上で20cm屈折赤道儀を用いた観測を本格的に開始した小山ヒサ子氏は、定年で退官した後も同望遠鏡での観測を続け、その観測枚数は1996年まで総計で1万枚におよんでいる。われわれは今回そのスケッチすべてをスキャナーでデジタル化し、その整約結果とともに閲覧できるよう、インターネットで公開を開始したので、その概要について報告する。

一人の観測者がこれほどの長期にわたって同一の望遠鏡で行った太陽観測の記録は非常に貴重なものであり、直径30cmに投影して行われたスケッチは極めて詳細なものである。サイト(*)では各観測日のスケッチや相対数だけでなく、各黒点群の緯度、経度、型・相対数の推移、1か月ごとのスケッチアニメーションなども公開しており、教育的にも有用と考えられる。

(*) http://www.kahaku.go.jp/research/db/science_engineering/sunspot/